INTERVIEW 福島で、実現する。 あなたが実現したいことは、なんですか？

水 産

先輩職員インタビュー

「豊かなふくしまの海を未来へ繋ぐ」

所属 水産資源研究所 資源増殖部

● これまでの経歴（所属年度）

H26～H27　水産試験場 栽培漁業部
H28～H30　農林水産部 水産課
H31～　水産資源研究所　資源増殖部

Q. 現在の仕事内容とそのやりがいについて教えてください。

A. 水産資源研究所では、魚介類の資源状況調査や増殖事業、放射性物質の影響調査など、福島の豊かな海を守るとともに、水産業の復興に必要な試験研究を行っています。

その中で私は、放射性物質が環境中から水産物へ移行する過程を解明するための研究や放射線モニタリング検査に関する業務などを行っています。福島県産水産物の安全安心を確認・発信していくことは、風評を払拭し、水産業の復興を進めていく上で、なくてはならない業務であり、やりがいを感じています。

↑松川浦における採泥調査

Q. 福島県職員として、実現したいこと、目標としていることは何ですか。

A. 東日本大震災から 11 年が経過し、福島の漁業関係者の努力によって復興が進み、漁獲量は年々増加傾向にあります。

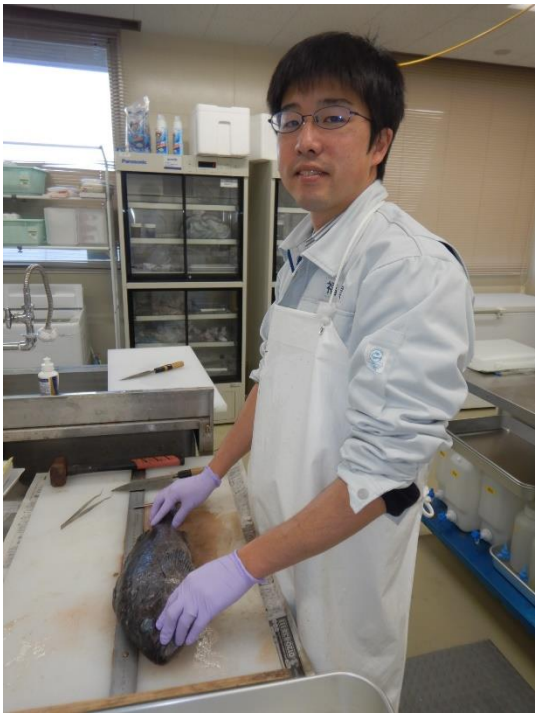
一方で、海洋環境の変動が一因とみられるサンマやスルメイカ、コウナゴの不漁が起きています。漁業の復興に漁獲量の増加は不可欠ですが、海洋環境の変化による資源（海にいる魚の量）への影響を考慮せずに漁獲を続けていると資源が枯渇してしまう恐れがあります。

私は水産資源研究所の職員として、海洋環境と資源の変化を把握して漁業者に情報提供するとともに、適切な助言を行うことで、漁業の復興と豊かな海の両立を支援していきたいと考えています。

Q. 仕事をする上で心がけていることは何ですか。

A. 水産資源研究所では、市場での水揚物の調査や調査船に乗船しての底びき網調査などを行いますが、これらは決して１人ではできない、同僚や調査船の乗組員の方々の協力があって初めて実施することができる業務です。そのため、調査について事前に打合せを行うなど、周囲とのコミュニケーションを欠かさないことを意識しています。

↑ゲルマニウム半導体測定装置による
放射線物質濃度測定



↑緊急時モニタリングにおける魚体測定

Q. あなたをキーワードで伝えるとしたら、どんな言葉が思い浮かびますか。

A. 「釣り好き」「子育て中」「海の生物」「東日本大震災を経験し県職員へ」「お酒は苦手」

Q. 「海の生物」について教えてください。

A. 私は元々海の生物に興味があったのですが、仕事の中では魚類だけでなく、水族館で見ることができない貝類やエビやカニなどの甲殻類、多毛類など、様々な海の生物に出会うことができます。バカガイという二枚貝がいるのですが、この貝がバケツの中ですいすい泳ぐ姿を見たときは驚きました。このような新しい発見がとても楽しいです。